

令和3年度
第2回
尾鷲市地域公共交通
活性化協議会
会議録

尾鷲市地域公共交通活性化協議会

平成3年度第2回尾鷲市地域公共交通活性化協議会

会 議 次 第

日 時：令和3年11月25日（木）

13：30～15：30

場 所：尾鷲市防災センター 2階 会議室

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 尾鷲市地域公共交通計画策定支援業務委託事業者について
- 4 市民アンケート・利用者アンケートについて
- 5 尾鷲総合病院前バス停移設の進捗状況について
- 6 その他
- 7 閉会

○令和3年度第2回尾鷲市地域公共交通活性化協議会 出席者名簿

役職名	氏名	団体名	備考
会長	下村 新吾	尾鷲市副市長	
副会長	佐野 茂機	尾鷲市区長会会長	
座長	豊福 裕二	三重大学人文学部教授	
監事	<u>服部 敬</u>	尾鷲市自治会連合会会長	
	大西 正隆	尾鷲市老人クラブ連合会会長	
委員	<u>濱中 靖人</u>	尾鷲市区長会副会長	
	中川 康司	三重交通株式会社 南紀営業所長	
	中西 義雄	三重県旅客自動車協会 紀北支部長 株式会社クリスタルタクシー取締役	
	内田 裕之	三交南紀交通労働組合執行委員長	
	鈴木 博行	国土交通省中部運輸局三重運輸支局 首席運輸企画専門官	
	上前 晃司	尾鷲警察署交通課長	
	羽田 綾乃	三重県地域連携部交通政策課長	代理 係長 濱口 竜一
	大鷲 浩己	国土交通省中部地方整備局紀勢国道事務所 計画課長	欠席
	松本 英之	三重県尾鷲建設事務所長	

※下線は新たに就任した委員

○随員 三重交通株式会社南紀営業所 係長 津田 大輔

○オブザーバー

三重交通株式会社 自家用営業部 河村 明洋

○事務局

尾鷲市政策調整課

課長 三鬼 望

課長補佐兼係長 濱田 一多朗

主査 川上 真

主任 片原 敏貴

開会：午後1時30分

1 開会

(豊福座長)

定刻となりましたので、ただいまから令和3年度第2回尾鷲市地域公共交通活性化協議会を開会させていただきます。

本日の会議ですが、ただ今の出席者は13名であります。規約第8条第1項の規定により、委員の半数以上の出席がありますので、会議が成立していることを報告いたします。申し訳ございませんが、会議の進行上、携帯電話はマナーモード等の設定をお願いします。

まず、委員の変更がございましたので、紹介させていただきます。

自治連合会 会長 服部 敬(はっとり たかし)様、

区長会 副会長 濱中 靖人(はまなか やすと)様、

以上のお二人に、新たに就任いただいております。どうぞよろしくお願ひいたします。

また、本日は三重交通 自家用営業部より、河村 明洋(かわむら あきひろ)さまがオブザーバーとして出席いただいております。自家用営業部はふれあいバスの尾鷲地区と須賀利地区の指定管理を受けていただいておりますので、ご出席をお願いしたところであります。

次に、本日配布している資料につきまして、事務局より説明があります。

(事務局長)

皆様、こんにちは。本協議会事務局長の尾鷲市政策調整課長、三鬼と申します。どうぞよろしくお願ひします。

また、本日は、事務局として、課長補佐兼係長の濱田と、事務担当の川上と片原が出席しております。どうぞよろしくお願ひします。配付資料につきましては、担当より説明いたします。

(事務局)

それでは、会議資料の確認をさせていただきます。

本日の会議資料としましては、「会議次第」、「委員名簿」、「配席図」、「資料1 尾鷲市地域公共交通計画策定支援業務委託事業者について」、「資料2 尾鷲市地域公共交通に関するアンケート調査結果報告」、「資料3 利用者アンケート(令和3年11月)」、「資料4 尾鷲総合病院前バス停移設の進捗状況について」、A3裏表の「尾鷲市公共交通のご案内」と書いた時刻表、になります。資料について、不足はございませんか。よろしいですか。それではよろしくお願ひいたします。

2 会長挨拶

(豊福座長)

それでは本日の会議でございますが、会議次第に従いまして進行させていただきますので、よろしくお願いいたします。

まずは会議次第の2、本協議会の会長からご挨拶いただきたいと思います。

(下村会長)

皆様こんにちは。会長をさせていただきます、尾鷲市副市長の下村でございます。

本日はお忙しいところ、本年度第2回目の尾鷲市地域公共交通活性化協議会にお集まりいただきありがとうございます。

さて、本日の協議会では、特に公共交通に関する市民アンケートや利用者アンケートの結果をご覧ください、尾鷲市の公共交通をよりよくしていくための率直なご意見をいただければと考えております。

皆様からいただくご意見が、現在策定しております「尾鷲市地域公共交通計画」の方向性に繋がっていくものとなります。どのようなことでも結構ですので、皆さまからの忌憚のないご意見をいただき、計画策定に際してのご助力をいただきたく、この場をお借りいたしまして、深くお願い申し上げます。

本日はどうぞ、よろしくお願いいたします。

3 尾鷲市地域公共交通計画策定支援業務委託事業者について

(豊福座長)

それでは、議事に入っていきたいと思います。

会議次第3の、「尾鷲市地域公共交通計画策定支援業務委託事業者について」、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

それでは、「尾鷲市地域公共交通計画策定支援業務委託事業者について」、事業者決定から少し時間が空いてしまったのですが、本日の協議会で報告をさせていただきます。

資料1「尾鷲市地域公共交通策定支援業務委託業者について」をご覧ください。

本年度策定します「尾鷲市地域公共交通計画」につきましては、その策定を支援していただく事業者を公募し、「尾鷲市地域公共交通計画策定支援業務事業者選定委員会」において、事業者より提出された企画提案書を審査し、委託事業者を選定しました。

選定委員会は、資料1の1に記載のとおり、豊福先生に選定委員長をお願いさせていただき、尾鷲市副市長、三重交通の中川様、クリスタルタクシーの中西様、尾鷲市政策調整

課の三鬼と濱田ということで、本協議会のメンバーによる構成とさせていただきます。

本年7月15日に企画提案審査を実施し、3事業者が参加する中で、資料1の4に記載がございます、ランドブレイン株式会社三重事務所様を選定いたしました。ランドブレイン株式会社三重事務所様は、現行の尾鷲市地域公共交通網形成計画においても策定業務に携わっていただいております。本市の状況を十分把握された上での整理検討、円滑な業務遂行が期待できることが評価され、今回の選定に至りました。

契約日は7月30日、契約金額は4,499,000円でございます。

なお、尾鷲市地域公共交通計画策定業務につきましては、資料1の7に記載がございますように、国交省の「令和3年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金（地域公共交通調査事業（計画策定事業）」の交付申請をしております、事業費に対して、1,050,000円の交付決定をいただいております。

以上で説明を終わります。

（豊福座長）

ただいま、事務局より説明がありました。これに関して、何かご質問やご意見等ございましたら、ご発言をいただきたいと存じます。

（濱口委員代理）

今回の委託事業者の選定にあたって、ランドブレイン様が現行の地域公共交通網形成計画事業者であるので、やはり市の状況を良く分かっている点が評価されたということですが、2事業者とランドブレイン様の違い、どの点を一番評価されたかということを確認させていただければと思います。

（事務局）

選ばせていただいた理由は、ランドブレイン様が本市の地域交通の状況を一番よく、的確に把握されているということが、一番大きなポイントだったと考えています。全体的に地域状況を何も把握していない状況から始めると、それだけで混乱が生じますし、全体的な評価点においても、ほとんどの項目においてランドブレイン様が上回っていたという状況が、他の2業者様と比べて大きな差でありました。

（豊福座長）

他にご質問、ご意見等ございませんでしょうか。なければ、「尾鷲市地域公共交通計画策定支援業務委託事業者について」の説明は以上とさせていただきます。

4 市民アンケート・利用者アンケートについて

(豊福座長)

次に、次第の4、「市民アンケート・利用者アンケートについて」、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

それでは、「市民アンケート・利用者アンケートについて」、説明いたします。

資料2「尾鷲市地域公共交通に関するアンケート調査結果報告」をご覧ください。

本来であれば、こちらの資料を皆さまに事前に送付し、一度目を通していただくべきところですが、会議当日の配布となりましたことをご容赦ください。

アンケート結果の詳細につきましては、のちほどご覧いただければと思いますので、今回は何点かかいつまんで説明させていただきます。

資料の1ページをご覧ください。まずこのアンケートですが、地域公共交通計画の基礎資料とするため、例年実施している「尾鷲市まちづくりに関するアンケート」と合同で、今年の2月に実施しました。

18歳以上80歳以下の市民から1,000人を無作為に抽出してアンケートを郵送させていただき、443人の方から回答をいただきました。

8ページをご覧ください。

目的地までの交通手段を質問したところ、JR、三重交通バス、ふれあいバス、タクシーと言ったいわゆる公共交通を利用される方は合わせて6.8%となっています。

1,000人無作為抽出ですので、アンケート結果としては公共交通を利用されない方の意見も多いものとなっています。

バスのことを言いますと、18ページをご覧ください。市内のバスを利用されるかを質問したところ、「日常的に利用する」「ときどき利用する」「車やタクシー等の利用ができないときに利用する」「天候が悪いときに利用する」を合わせて、7%の人がバスを利用しています。

19ページには、そのバスを利用される方に、バスを利用する理由を質問したところ、「バス停が自宅や目的地の近くにあるから」という理由が36.8%で最も多いものでした。

21ページでは、バスをもっと利用するために、改善して欲しいこととしては、「バスの運行本数を増やす」が最も多く、次いで「バスの運賃を安くする」、その次は「家の近くにバス停を設置する」となっています。

25ページでは、定時・定路線（決まった時間に決まったルート）のバス運行についてどう思うかを聞いたところ、「現状維持」「利用者が少ないバス停やルートは廃止したうえで定時・定路線を維持」「定時・定路線を維持しつつ、それを補う形で、乗りたい時間に乗れるような新しい仕組みを一部に取り入れて欲しい」の3つを合わせると39.8%であり、

基本的には定時定路線を望まれつつ、それを補うような何らかの手段を望まれていることが伺えます。

26 ページでは、デマンド交通、いわゆる予約したうえで、ある程度出かけた時間、行きたい場所まで行けるというものですが、この仕組みを地域の任意の団体が構築している例もあることに対してどう思われるかと質問したところ、「行政と地域とがそれぞれ補い合いながら、交通手段を確保していくべき」の回答が最も多いものでした。

27 ページをご覧ください。そのデマンド交通を利用したいと思われるかを質問したところ、「利用したい」「利用するかもしれない」と答えた人が全体の35.8%でした。そのうち、日常的にバスを利用する機会のある人では、「利用したい」「利用するかもしれない」48.4%ある一方で、「ふれあいバスの方が良い」、予約を必要としない定時定路線のふれあいバスの方が良いと答えた人が25.8%ありました。

30 ページですが、市が公共交通の費用負担をしていることをどう思われるかという質問ですが、最も多いのは「地域住民での助け合いによる移動の仕組みも取り入れ、市の費用負担を少しでも減らし、運行を維持すべき」20.8%、ついで「市の費用負担は現状のままで、運行を維持すべき」16.0%となっています。

31 ページは、新型コロナウイルス感染症が公共交通の利用に影響を与えたかを質問したところ、バスを「日常的、または利用する機会がある人」の38.7%が公共交通の利用を控えたり、利用をやめたりしているということで、やはり大きな影響があったことが伺えます。

36 ページから40 ページは、どのような公共交通であれば利用したいと思うかを自由に記載していただいた結果です。増便に関する事、運賃に関する事、バス停の数や設備に関する事など、様々な意見をいただきました。またのちほどご覧いただければと思います。

41 ページからは、このアンケートを送付した時期がまさに新型コロナの感染が拡大しているころでしたので、感染症に対してどのような対策があれば、安心して公共個通を利用できると思うかを質問したところ、一般的な感染症対策（マスクの着用、消毒の徹底、3密の回避、換気、一人一人が気を付けるなど）を講じることという回答が多くありました。

45 ページからは、最後の設問で、公共交通に対するご意見、ご要望を自由に記載していただきました。JRについては、増便や運賃についての意見が多く、バスについては、ルートやバス停の充実についての声が見られました。

また、現在は公共交通を利用していないものの、今後温利用を見据えた不安についての意見や、現在利用している高齢者に対する配慮の意見などが多くみられました。

53 ページ以降は、調査に使用したアンケート用紙を参考までに掲載しております。

以上が市民アンケートの概要になります。

続きまして、資料3「利用者アンケート（令和3年11月）」をご覧ください。先ほどの市民アンケートは無作為抽出した方たちでしたが、こちらはこの11月にふれあいバスに乗

り込んで、実際にバスを利用されている方に聞き取った内容となります。なお、八鬼山線、ハラソ線につきましては、サンプル数が少なく、もう1回ほど聞き取りを行いたいと考えており、資料全体としては整えておらず見にくいかとは思いますが、現時点での結果の報告ということでご了承いただきますようお願いいたします。

1 ページをご覧ください。ふれあいバス尾鷲地区では56名の方に聞き取りました。りよされている方の年齢層としては、60歳以上の方が約8割でした。ふれあいバスを利用される理由としては、複数回答ですが、買い物が最も多く、通勤、通院が同数でした。

問4の満足度ということで、運賃、本数、時間帯、経路、バス停の位置、乗り継ぎのしやすさ、待合環境のそれぞれの満足度を伺いました。

結果は本数や時間帯について、やや不満、不満との声が多いものでした。

次のページは、やや不満と不満と答えた理由です。

昼からの便の増便の声が多く、天満行の便を少なく等の声もありました。

3 ページは須賀利地区の結果です。27名から聞き取り、年齢層は75歳以上、利用理由は通院が大半でした。

経路やバス停の位置について、やや不満、不満が多い結果でした。その理由としては、家の近くで降ろしてほしいや、島勝の郵便局まで送ってほしいというものが多く見られました。

4 ページは八鬼山線の結果です。28名から聞き取り、年齢層は75歳以上が大半であり、利用理由は通院、買い物の順で多くなっています。

満足度としては、本数や時間帯で、やや不満、不満が多くなっています。次のページはやや不満と不満の理由です。朝尾鷲駅で乗り換えるときに30分待つ必要がある、用事を終えて帰るときにちょうどよいバスが無い、本数が増えたらよいなどの声がありました。

6 ページはハラソ線の結果です。24名から聞き取り、約6割が75歳以上でした。利用理由は通院、買い物の順で多くなっています。

満足度としては、本数、時間帯、待合環境といった点でやや不満、不満が多くなっています。次のページでその理由ですが、11時過ぎや午後にもう1本欲しいといった意見や、バス停に屋根・イスが欲しいと言った意見が多く見られました。

8 ページ以降は調査に使用したアンケート用紙を参考までに掲載しております。

以上、簡単ですが、現時点での利用者アンケートの結果の報告をさせていただきました。

少子高齢化による人口減少、利用者の減少、運行費用の増加傾向、限りある輸送資源など、現状を取り巻く様々な課題がある中、市民アンケートや利用者アンケートでは様々な意見をいただいております。委員の皆さまには、このアンケートの結果をご覧ください、率直なご意見をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上で説明を終わります。

(豊福座長)

ただいま、事務局より説明がありました。本日の会議の一番中心の議題がこれになるということです。まだ配られたばかりですので、皆様ちょっと追いついてないかと思えます。ゆっくりご覧いただければと思いますけれども、様々なご意見がございます。一方で予算にも限りがある中で、利便性が高く、持続可能な公共交通としていくためにはどうしていったらいいのかということで、いろんな意見が出されております。

(服部委員)

アンケートの取り方が冷たい感じがします。と言うのは、これ以上は何ともならないと考えているのか、一応はこういうふうなアンケートを取って検討していますよというところで、実際、尾鷲の市内でもまだ便利なところにいるので、車も乗れるし、バイクも乗れるし、自転車も乗れるということになると、そう感じないんですけども、1人になったとか、年取って動けなくなったという時に、やはり今書いてあるような要望、本数増やすとか家の近くまで持ってきてくれとかということ、もっと真剣に考えてやらないと。

実際僕はほかにボランティアをしていて、百五銀行の前で知り合いのおばさんに、バスに乗っているというのでふれあいバスに乗っているのかと聞いたら、三重交通のバスに乗っていると。ふれあいバスには乗ったことない。

三重交通のバスに乗れる人、ふれあいバスでしか行けないようなところにいる人、そういうことを考えた場合に、僕もどうしたらいいというのは分かりませんが、何となく今こういうふうな会議をしても、会議をしている人はそんなに不便を感じていない。周辺に住んでいるという人もいるかもしれないけども、年を取ってきて、そういう人達の中へ入って行ってアンケートを取ったのがこの結果なんだろうと思うけど、まだまだあと10年経ったらとか、そのころには違う考えになるかもわからないが、今のままではいかんように思う。これは自分を助けてくれという意味で言ってるのもあるが。

(事務局)

その通りだと感じています。今度12月の終わりから、まだちょっと区長の皆さんと話をはしていませんが、各地区を回らせていただいて、やはり生の声を、この前の市長懇談会の席でもバスの話がありましたので、地区に入らせていただいて聞かせていただくというのをやらせていただこうかなと思っています。

その時にしないといけないのは、現在乗っている方の声をきちんと拾わないといけないということ、これから乗るであろうという人達がこうであつたら乗れますよという両方のご意見は聞いておかないと、実は乗ってないけど意見だけは言っていて、実際の利用者との乖離があつてしまうと、せっかくダイヤ改正しようがいろんなものに手を講じようが、なかなか満足度の向上につながらないということがあり、その辺は極力埋めていきたいと考えておりますので、輪内地区はもちろん、市内は中央公民館や市の会議室でもですね。

老人会さんや自治会連合会さんにも、お話をこの後終わってからしようと思っていたんですけど、そういうところで皆さまに出てきていただいて、忌憚のない現状と課題を聞かせていただいて、少しでもいいような形でできればと考えている。

さきほど、経費の話がちょっと出たと思うんですけど、実際のところ運行費用は数千円かかっている、ずっと右肩上がりになっている部分が正直あるんです。このままずっと上がり続ける、皆さまの言うように例えば本数をあと1本でも2本でも3本でも増やして欲しいとか、デマンド交通でというように、より便利さを求めるのは確かに理解するものの、その可能性を探っているのは事実なんですけど、経費が上がって満足度が上がったとしても、いつまで維持できるかという問題はどうしてもついてまいりますので、あくまでそこは公共交通である、大人数の方がちょっと不便であったとしても、バスの時間帯に合わせて家庭の行動の時間を合わせていただくとか、自分の生活リズムをちょっとあわせていただくということのお願いをしないといけないのかなと。

実は今回の検討をする前に、いろんな民間の事業者、もちろん三重交通さんやクリスタルタクシーさんとも何度か協議をさせていただいて、何とか地域の中でも助け合い的に出来るものはないのかという方策も探っていたんです。最近ちょっと会議が出来ていないんで滞ってるんですけど。その中でやはり問題となったのが、全ての地区の高齢化率が60%を超えているので、ドライバー確保が、あと5年、10年経ったとき、今はできたとしても、なかなか地区の助け合いだけで、そこで繋いで主要本線の本数を増やせるかということ、それもなかなか難しいなというのがあって、その辺もトータル的に考えて、一番いい方法を今後の5年の中でやっていきたいと思っておりますので、またご意見をいただければと思います。我々も少しでもより便利になるように、公共として作っていきたくと思っていますので、よろしく願いいたします。

(大西委員)

私、老人会の会長をいただいているんですけど、老人会の方にも不服の問題点が出てきているわけなんです。それはどこかということ、矢浜のほうで本数を増やして欲しいとか、乗車場所を増やして欲しいとか、そういうことが出ているわけなんです。アンケート調査も見せていただいたんですけど、載っております、本数を増やして欲しいとかね。そういうことについてはいかがでしょうか。

(事務局)

全体を見ての話になってしまうんですけど、先日も行野、大曾根に市民懇談会にいたときに、7時は早すぎる、9時は遅い、8時にしてくれという話も出ていたんです。そこは話を伺ってきたんですけど、結果的に今の公共交通の体系というのは、例えばJRの時間であるとか、他の接続も考えてダイヤを構成している部分があって、例えば行野や大曾根の方たちが7時が早いので8時にしてねということで、ダイヤを8時に変えるとそれ以降の方

の時間が全部ずれてくるということがあって、果たしてどこを建てればいいのかというのが正直あるんですね。

その他、矢浜もありますけど、尾鷲高校の上の方だとバスが入れない、昔、市内の定時定路線のバスを運行させてくれと言ったら、道幅が狭いので無理ですという話があったというお話を聞いて、先日も我々で現地を見てきて、途中まででも伸ばせる手法はないかなという話はしているんです。なのでぜひそういうのがあったらですね、ちょっとやはり聞かせていただいて、現地を見させていただいて。ただ、懇談会でも言おうかと思っているんですけど、実はこの時間を 1 時間遅くすれば、そこから後の人たちがそれに合わせて全部遅くなっていくということと、それと他のダイヤとの接続がうまくいなくなる可能性があるので、その辺をご理解をいただいたうえで、ちょっと工夫ができないかと思っているんですけどね。

(大西委員)

その辺についてですね、私も老人会の方から言われてるので、一応はお話をしてみますということは言うてあるので、私も現場じゃないので分からないんですけども、いろいろな状況について、またいろいろとお話いただきたいなと思います。よろしくお願いします。

(事務局)

わかりました。バス停の場所についても、須賀利とかもあって、ここを減らしてもいいので奥まで行って欲しいというお話もいただいているので、それらもお話を聞かせていただきたいと思います。

(服部委員)

例えば矢浜の話も出たけども、消防署の前の 42 号線、あそこはバスは通るけども、桂ヶ丘とか中に入ったところとか、バスが来ないよと。そういう話になった時に、今まだそういう意見を出してる人は動いているわけです。だけど 80 そこそこかな、いつまで動けるかということになると、この間新聞に、アシスト付きの三輪車が乗っていて 18 万くらいと書いてあったと言ったら、あんなん嫌やと言ってたけど。そういうことで、確かにとこの近くにバスが来てくれるという方法を考えてやらないと、うちまで来てくれないのならちょっと知り合いに頼んでとなると、せっかくバスが来ていても乗る人が少ないということにならないか。

それで一番最初に言われたように、乗らない人があだこうだ言うのはという話だけど、僕らも乗っていないのでそう言われるとうーんと思うけど、ちょっと無責任かなと自分も思う。ところがさっき言ったように将来的には自分に関わってくる、あと何年動けるかというのは保証がないので。そういところを考えた場合に、早急にちょっとでも改善してもらわないと思う。ただ集まって会議してポンではあかんと思う。

自治連の時には、市の職員をいじめるなど会長として挨拶したのに、自分が言いたいことと言い出すと結構きついで、その辺は容赦してください。

(事務局)

我々も意見はたくさん言っていて、誤解いただきたくないのは、乗っていない人の意見はというわけではなくて、公共交通としてはふれあいバスの乗車率を高めたい、皆さんが乗っていただくとそれだけより持続的に体制が来るので、それは市外から観光客もそうですけど、これからちょっと乗ってみようかなと、人に頼むのも後のお礼とかしてお金がかかるからやっぱり公共交通のバスで行こうかなというふうに、利用者がどんどんなる施策を打っていくというの必要なことだと思いますので、いろんな人の声を聞かせていただいて、その人たちが1回でも2回でも乗っていただくような形で進めたいと思います。

(服部委員)

まず、乗ってみるという体験が要るな。実は近所に親父さんが小さい子を守りしていて、どこに行ってきたのと聞いたらバスに乗ってきたと。楽しかったよという話を聞いて、そういう使い方もあるのかという気がした。それで言うと、今要らないと思っているけども、いっぺん乗ってみようかなと。いくらするかも知らないの。

(事務局)

もうひとつ付け加えれば、ご意見の中でバス停のイスが欲しい、屋根が欲しいというご要望はたくさんいただいています、お電話もいただきます。実は設置場所も基準がありますので、出来ることと出来ないことがあってですね。出来ることは、実は我々の中で農林のほうからもとがえしをいただいてきて、何か所か置きに行ったりですね。市の中の余っているイスを瀬木山の主婦の店にお願いして置かせていただいたり、出来ることはさせていただいているんです。

我々も確かにふれあいバス、イオンの前とかで待っているときに雨に濡れて買い物かごを持っている方たち、男性の方も女性の方もおられるので、ほんと言うとその辺も解消したいなというのはあるんですけど、果たしてどこまでできるかというのも悩んでいて、それらも声としては理解しております。

(事務局)

さきほど言われたことで、バスに乗ったこともない方もいる、子どもさんが乗ったら喜ぶという話もあって、確かにバスに乗られていない方もいっぱいいて、そもそもどうやって乗るか、どうやってお金を払うかとか、そういうのも知らない方もたくさんいます。

公共交通に触れて、まずは身近に感じてもらうというような意味も込めて、バスの乗り方教室とかですね、学校をまわってやるとか、地区をまわってやるとか、そういう草の根運動的なことも今後必要になってくるのかなと思って、そういうのも検討してはいるところですよ。

(服部委員)

実際、汽車に乗るときも切符の買い方を知らないとか、そういう恥ずかしいことを子供に言ってるんですよ。車で行くのなら少々走れるけど、車もだんだん距離が乗れないようになってくるし。公共交通の乗り方というのを勉強しないといかんな。

尾鷲みたいな町にいと車があるからと皆言ってるんです。そんなの車がない人もようけおるけどな。歩いている人を見ると、来年は歩けないかもしれない、足も悪くなっていく。ちょっとそういうことを考えるようになったな。

こういう会議をした時に、いらぬことでも言っておくとそこから発展することがあるので、景気づけに僕はどっちかというタイプ。それに乗っかって皆が意見出してくれたらいいなと思うんだけど。今話してるのは、自治会長と大西会長の今のところ二人なので、この場というのはこんなに意見を出さなくていいのかな、結局こうやって錚々たるメンバーを集めて何もなく30分もかからず終わる場合がある。何のために集まったのかなということも最近経験したので。せっかく出てくるんだったら、一言しゃべっていったら顔も覚えてもらえると思う。

確かに僕は今のところ場違いなところに出てきているくらい、急に連合会長を受けたので。県の偉いさんや警察の人と話できるようになってくるんだけど、本来なら出方もよくわからない、ネクタイ締めてこないといけないのかとか。ネクタイを締めていかないけないとなるとちょっと二の足を踏む、そんな年です。

(大西委員)

もう一点、お伺いしたい。ふれあいバスだが、うちの方から三木里の方へ行くと、JRとの連結が出来てないということで、大分不満が高まっているんですけど、その辺についてはいかがですか。八鬼山線が三木浦から出たとしたら、三木里の駅へ行くのが何本もあるのかな、ほとんどが尾鷲駅の方にまわるでしょう。

(事務局)

三木浦からだとも3本です。

(大西委員)

梶賀のハラソのほうは、梶賀から来ても三木里駅に寄るね。

(事務局)

そうですね。

(大西委員)

その連携をして欲しいなという声を聞きますので。

(事務局)

全体のダイヤの調整を見させていただきます。

(事務局)

例えば三木浦から三木里駅へ行って、そこで駅から新宮方面へ行く人と、松阪方面へ行く人だったら、どちらが多いとかありますか。

(大西委員)

上りの方が多いいんじゃないかな。この間は、うちの孫なんかでも、高校へ行った場合に三木里の駅は着かないので、九鬼の駅を利用して、九鬼から下りで乗った、そうして学校へ行った状況です。三木里では全然ダメなので。

(濱中委員)

現状の予算で、4便か、ハラソにしる八鬼山にしる、これが一応今の予算では限度という形ですか。

(事務局)

そうですね、正直なところ厳しいかなと思っていて、ひとつの方策としては、以前事業者さんとの話の中では、スクールバスの活用ができないのかという話も上がっているのは事実です。この前も教育委員会の方ともちょっと話をしてきたものの、やはり子供優先、ほとんど通学の時以外は空くものの、いざというときには優先的に使わせるという部分が出てくるというのと、例えばスクールバスに同乗となってしまうと、お金の問題、取れないとなると、それを解消しようとするスクールバスの方を有料化して子供たちを免除するのはどうかという話を振ってみたものの、そうすると今度は、自由に定時定路線できちんと動かせるものではなくて、臨時的に何か子どもたちの学校優先のものが出た時にどうか扱うのかという話も出てくるし、今いろんな問題があるので、知らない人がたくさんスクールバスに乗った場合の安全性とかいろんなことを危惧される声も学校からあるかもわかりませんし、その辺は教育委員会との調整が必要かなと思います。

我々がバスを走らせているのは、教育委員会が持っている3台と、ここで契約している部分なので、トータルでうまく解消できないかなと思っているのがひとつです。

あともうひとつは、社協さんが進めているような買い物支援的な動きですね。社協との

連携の話もしているんですけど、それぞれができないところを補完できないかとか、集落支援員さんがやっている動きとうまく連結できないかとか、合わせ技でしていかないとかなかなかプラスでということではできないかなと思っているんです。

以前、デマンド交通をした時には、倍くらいのお金がかかるということを見積もりを取った時にちらっと聞いているので。

(大西委員)

社協の集落支援員のあれについては、まだきちんと市の方と連携はできていないんですよ。

(事務局)

社協の担当の方とは話はしていますし、この前地区で買い物支援の実証を。

(大西委員)

梶賀とか曾根の方で試験的にやっているらしいけれども。

(事務局)

そうですね、それをするという話は事前には伺っていましたので、社協と我々は歩調を合わせて、お互いができることと、社協が担えること、定時定路線は社協はできないので、そこで買い物支援とかの部分で出来るのであれば、そこは社協にお願いしてという形で、少しでも便利なものになるようにと思っています。連携はしています。

(濱中委員)

この前の市長懇談会でも不満が出ていたんですけどね、やはり見ていると、ほとんど空車で行って、空車で帰ってくるんですよ。ほとんど利用していないと。0に近い利用じゃないかと思ってですね。いろいろと区の方にも不満は来るんですけど、不満が来る人も実際乗るのは見たことがない。1日に2～3人乗るか乗らないかだと思うんです。おそらく0の日の方が多んじゃないかと思うんですよ。時間的な問題とか色々あると思うんですけども。

(事務局)

確かに私も乗車してアンケート調査に行った時に、バスの乗車人数が少ないだろうと、小型化とかできないかと思って、乗ってみたことがあるんですけど、やはり時間帯によるんですね、今の利用しているバスが満杯になるという状況があるんです、特に午前中の便とか。確かに乗っていない時間帯があることも事実なので、よその市町で言うと、例えばよく買い物行く日に集中させてしまうとか、地区を分けてバスの時間帯が違うとか、中抜

けをさせた後の時間を増やすとか、いろんな取り組みをしてますので、一番よく利用される時間にもっていくというのもひとつなので、それもやり方かなと思います。

(服部委員)

朝の時間帯を増やすと言っても、バスが2台あるわけではないでしょ。

(事務局)

ないですね。多くて20数人乗られているところもあって、やはりたくさん乗られる時間帯によるとこれだけ乗られるんだなと思います。かと言っておっしゃるように、スカスカのところはスカスカなんです。

(濱中委員)

だから見ている限り、乗っている人が少ないので、果たして1日に何人乗っているのかということをおある程度出してもらったら。

(事務局)

昨年八鬼山で18,365人が乗られている。令和2年度で4路線で47,000人ほどの方が乗られているので、平均で1日130人くらい乗られている。八鬼山だと1日50人くらい、往復にすると1日25人くらいが乗られていると思います。

(服部委員)

カウントの仕方があるんでしょ。

(事務局)

月の報告は全部来ています。ハラソ線だと1日20人、往復で考えると10人かなと思います。おっしゃるように1日20人としたとしても便数が4便とすると、割ったら5人なので、当然空のところも出てくるし、固まって10人乗られるところも出てくるかなと思います。

(服部委員)

流行り言葉ではないが、もうちょっと精査してみて、変えられるところは変えてもらって、今の状況、説明で納得できない部分があるんだったら、納得できるような取組みを考えてもらって。始発のところで見ている人がそんなんだったら、途中で見ていたらいろんな言い訳ができるけども。

(事務局)

ひとつ補足説明をさせていただくと、令和2年度はコロナの影響でとータル47,000人ですけど、平成28年度では63,000人くらいが乗られているので、結構差があるというのが事実です。

(服部委員)

結構使っている人は使っていますね。

(事務局)

そうですね、なくてはならない足であることは事実です。また、年間利用者数などの資料については、次回にでも提供させていただきます。

(豊福座長)

他はよかったですかね。本当にこの会議でいろいろと意見を出していただいたらいいと思います。なかなかこういう市民全体のアンケートという形にすると、実際に乗っておられる方の回答数もそんなに多くはないということもあつたりしますので、ただ一方で市民全体の税金で成り立っているということもあるわけですから、そういう意味では全員からきちんとこういうサンプルで意見を聞くということにはしなきゃいけないことなんだろうなというふうには思います。

今回、須賀利、九鬼、早田だと、バスを利用しているという方が回答されてませんよね。

(事務局)

入ってない部分は、やはり地区へ入って聞いて、これは案の段階で考えている最中なんですけど、どのように区で皆さんに集まっていたかのかも含めて、もし当日懇談会に来ていただけない場合は、例えば意見だけでも出していただけるように、紙を作ろうかなと考えています。乗車している、乗車していない、当日来れないのでこうしてほしいというような紙を、区長さんなり誰かに届けていただけてというような形で、出来るだけ多く拾えるように考えております。またそれは相談させていただきますので、よろしく願います。

(豊福座長)

はい、今回のアンケートだけでは、地区別の意向まではサンプル的に難しいところがあるのかなと思いました。サンプル数的にも少ないし。全体のサンプルとしては十分だと思うんですけど。そこはむしろ地区ごとの懇談などで補っていった方が良いのかなと思います。

また、今日のご意見等を踏まえて、次回また検討できるということですので、今日のと

ころはこれくらいでよろしいでしょうか。

それでは、次第の4はこれくらいとさせていただきます。

5 尾鷲総合病院前バス停移設の進捗状況について

(豊福座長)

次に、次第の5、「尾鷲総合病院前バス停移設の進捗状況について」、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

それでは、「尾鷲総合病院前バス停移設の進捗状況について」、ご説明いたします。資料4の1ページをご覧ください。

1ページには昨年度より進めております、パーティハウス前のバス停「尾鷲市病院前」を尾鷲総合病院の入り口前のバス停「尾鷲総合病院」に移設する事業の概要を記載しております。この事業に係る道路改修工事につきましては、去る11月15日から、紀勢国道事務所様により実施いただいております。

2ページ目をご覧ください。まさに今ですが、工事の期間中、バス停「尾鷲総合病院」は使用が出来なくなりますので、一時的にこのバス停を、おわせお魚市場おとと前のバス停「尾鷲市病院前」（上り路線）と同じ位置に移動させていただいております。

これに伴い、「ふれあいバス尾鷲地区」につきましては、「尾鷲市病院前」（上り路線）の位置から大滝方面に向かう場合は、「おわせお魚市場おとと」と「主婦の店セントラルマーケット」の駐車場内を走行させていただき、ファミリーマート前の交差点から抜けていくという運行をさせていただいております。

また、尾鷲総合病院への直行便である「ふれあいバス須賀利地区」の第一便につきましても、工事期間中は、パーティハウス前のバス停「尾鷲市病院前」（下り路線）で降車する運用をさせていただいております。

この工事は令和4年2月28日までの予定と伺っております。

3ページ目をご覧ください。こちらはバス停に掲示したお知らせ文書ですが、工事期間におけるバス停位置の一時変更については、バス停へのお知らせの掲示のほか、尾鷲市ホームページへの掲載、エリアワンセグ放送にて周知を図っております。また、この後になりますが、広報おわせ12月号にも掲載いたします。

今回の工事が完了しましたら、バス停を元の位置に戻し、「尾鷲市病院前」（下り路線）を「尾鷲総合病院」に移設統合させますが、その運用開始日につきましては、三重交通様とも十分調整させていただき、また後日になるのですが、バス停の変更について、正式に本協議会の承認を賜りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

(豊福座長)

ただいま、事務局より説明がありましたが、これに関して、ご意見、ご質問がありましたら、よろしくお願いいいたします。

(服部委員)

2 ページ、3 ページの写真と絵が反対になるので、尾鷲の人は分かるかもしれないが、よその人がこれを見たらよくわからないのでは。

(事務局)

元の総合病院前のバス停に張っていて、その位置からだとちょうど良いのですが、確かに資料的にはわかりにくくて失礼しました。

(濱口委員代理)

確認させていただきたいことが1点ございまして、これまでの会議で説明済みであれば申し訳ないのですが、今回のバス停の改良が終わったあとなのですけれども、現状の三重交通の路線バス、高速バスの下り線が停車している停留所も変わるということによろしいでしょうか。

(事務局)

はい。

(濱口委員代理)

そうすると、ダイヤは数分ですが変わるということでしょうか。

(中川委員)

今のところダイヤの見直しについては考えておりません。実測しながら考えていくところですが、現状としては考えておりません。

(豊福座長)

他はよろしいでしょうか。それではこの件については説明は以上とさせていただきます。

6 その他

(豊福先生)

それでは、次第の6、「その他」ですが、事務局、何かございますでしょうか。

(事務局)

今後の地域公共交通計画に関するスケジュールについてですが、先ほどもありましたが、地区別の懇談会を行い地域の意見を伺いたいと考えております。できれば12月下旬ごろから、今後早急に各地区と調整させていただき、順次実施させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

今回皆様にいただいた意見や、地区懇談会での意見等を踏まえ、また、交通事業者の皆様ともお話をさせていただきつつ、次回の協議会では、地域公共交通計画の素案をお示しできればと考えております。

次回の協議会の日程につきましては、また豊福先生ともご相談させていただくこととなりますが、公共交通計画の協議のために、タイトではございますが、あと2回ほどは実施させていただきたいと考えております。

今年度も残りが少なくなってきており、皆さまにはお忙しい中、大変お手数をお掛けいたしますが、何卒、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

(豊福座長)

その他、皆さまから何かございませんか。

(大西委員)

確認ですが、懇談会については、各地区で別々にやっていくということですね。

(事務局)

そうですね。この前の市長の懇談会の形で、時間は過去の事例から1時間くらいかなと思っているんですけど、ご相談させていただきたいのは時間と、どこまでお声がけさせてもらえばいいのか、全体なのか、区の代表の方にまとめていただくのか、その辺をお話させていただきたい。

市内の方については、前回は市役所の第2・3委員会室でしていただきましたので、それも夜なのか昼がいいのか、土日がいいのかというのは、お話を聞かせていただきたいと思います。

形式は、この前の市長懇談会と同じ形でやらせていただければと考えています。

(鈴木委員)

公共交通計画のスケジュールですが、これから素案を作るとことでタイトな振興になると思うのですが、お願いしたいのは今回もそうだったんですけど、公共交通計画を議論する際には、事前に資料を送付していただくようにお願いします。やはりボリュームがある形になると思いますので、この場で突然配られて議論というのはちょっと難しいかと思っておりますので、ある程度目を通す時間を、会議の前に作っていただきたいと思います。

(事務局)

今回の会議につきましては、資料を事前に配布させていただきます。実は本日も中間案的なものはあるのですが、十分に議論されていなくて、どうですかというのは失礼かなと思ひ、我々もきちんと議論し、もっと聞いて練ったうえで、皆さまに見せるべきだということで、あえてここには持ってきていません。今度は 1 週間程度事前に配布させていただきます。

(豊福座長)

その点、お願いいたします。その他よろしいでしょうか。無いようですので、以上をもちまして、本日の協議会を閉会させていただきます。皆様、お疲れ様でした。ありがとうございました。